

同志社心理学の新たな展開

心理臨床センター副センター長 佐藤 豪

2010年11月から同志社大学に心理臨床センターがオープンしました。また、2011年4月からは、同志社大学大学院心理学研究科の博士課程前期課程を心理学コースと臨床心理学コースの二つに分けて教育を行うことになりました。

このような動きは、同志社大学心理学が長い間目指してきた基礎と臨床を結ぶという考えを進めてきた結果であるとも言えますし、さらに実践という面を目指した新たな動きとも言えると思います。

臨床心理学コースでは、大学院生に臨床心理学における実践的な技能を習得させるために前述したように心理臨床センターを設置しました。このセンターの施設について簡単に紹介しますと、面接室、プレイルームとそれに隣接する観察室、待合室、カンファレンスルーム、事務室、スタッフ控え室などを備えたものです。

またセンターを運営するスタッフについてですが、臨床心理士の資格を持つ心理学研究科の専任教員、カウンセラー、事務職員がその運営に当たるとともに、臨床心理コースを専修する大学院生が教員の指導のもとに来談者の援助にあたっています。

この施設は大学院の教育・研修施設であるとともに、様々な問題や悩みを持った来談者一人一人を大切に、それぞれの人の人生、生き方、生活環境にあった心のサポートを提供する場所となるものです。この点では、京都にある同志社大学が、まさに地域貢献できる一つの道を新たに作ったともいえるのではないのでしょうか。

さらに言えば、校祖新島襄の言葉にある「人ひとりは大切なり」という理念を心理学の領域で実現するための一施設でありたいとスタッフ一同願っている施設でもあります。

このような心理臨床センターを研修施設として備えた臨床心理学コースでは、サイエンティスト・プラクティショナーの考えを基本とした臨床家の育成を目指しております。つまり実践家を育てるとともに、さらに臨床心理学の新しい分野を切り開いてくれる研究者となるような人物が育ってほしいという希望を実現できる場と考えています。

このような教育方針のなかで、学生には臨床教育のみに偏ることのないように、大学院の教育科目としては、非常に多彩な選択科目を設置しています。とりわけ心理学コースの授業をとることができるために、心理学の専門家としての幅広い知識の蓄積と専門的なトレーニングや教育がバランスよく行われることとなります。

今回臨床心理学コースの研究・教育活動の一つとして、このような論文集を発刊できますことは、同志社大学の臨床心理学に関わるスタッフ一同の喜びとするところであり、この論文集が多くの心理学関係の研究者、学生諸君の研鑽の場、練達への道場となることを祈念するものです。